中学校 × 保健体育

保健体育どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。

変わる所 6項目　解説PDF 1件



10秒でいうと

「体育理論」を「スポーツ理論」に改称。公正・協力などは「運動との関わり方」として学ぶ

小5〜中2は「多くの領域の運動を経験し、スポーツの基礎に触れる時期」と整理し直す方向です。中3からは「卒業後も多様な楽しみ方で関わる時期」です。「体育理論」は「スポーツ理論」に名称を変える案です。保健は、個人生活を中心とした健康・安全を科学的に学びます。公正・協力などは「運動との関わり方」として教える方向です。

どこが変わる？現行⇔次期（中学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜中学校 保健体育：どこが変わる？（マーカー比較）｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

公正・協力・責任などの態度の位置づけ

現行

「学びに向かう力、人間性等」の中に、愛好的な態度と並んで公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全の態度が位置付けられている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

これらは「**運動との関わり方**」として「**知識及び技能**」を中心に整理し直す方向。愛好的な態度は「運動やスポーツの**多様な楽しみ方を目指す態度（仮称）**」として「学びに向かう力」に残す。

P268 P269 ※現行と改善イメージの対比図は資料編m3 P204（保体⑯）

体育の12年間の時期の分け方

現行

小1〜4「各種の運動の基礎を培う時期」、小5〜中2「多くの領域の学習を経験する時期」、中3〜高3「卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期」。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

4年ごとの区切りは保ちつつ、小5〜中2を「多くの領域の運動を経験し**スポーツの基礎に触れる時期**」、中3以降を「卒業後も運動やスポーツに**多様な楽しみ方で豊かに関わる**ことができるようにする時期」と再整理。小1〜4は「**遊び**」の要素を取り入れた学習に。

P265 P268 P270 ※系統性の改善イメージ図は資料編m3 P202（保体⑭）

体育の領域名「体育理論」

現行

中学校・高校に「体育理論」の領域がある（中学校：運動やスポーツの多様性など、高校：スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展など）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

領域名を「**スポーツ理論**」に改め、改正スポーツ基本法の趣旨にも留意して内容を改善する案。

P270 ※現行の内容構成は資料編m3 P207（保体⑲）

高2以上で求める技能の水準

現行

学校段階が上がるにつれて技能の内容が積み上がっていく（例：ベースボール型で中3・高校の技能の記述が中1〜2より高度になる）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

高2以上（最終段階）で示す技能は、**現行の中3〜高1程度**を置くことを基本に全体の系統を整理。発展的な学習の余地は示す。

P272 ※ベースボール型の現行と改善イメージの例は資料編m3 P211（保体㉓）

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜中学校 保健体育：どこが変わる？（マーカー比較）｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

保健の学校段階ごとの学び方

現行

小学校「身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容」、中学校「個人生活における健康・安全に関する内容」、高校「個人及び社会生活における健康・安全に関する内容」のスパイラル構造。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

小学校は「身近な生活を中心とした」内容を**実践的に**、中学校は「個人生活を中心とした」内容を**科学的に**、高校は個人及び社会生活の内容を**総合的に**学ぶ系統に再整理。健康・安全の「**概念**」と「**それに関わる原則**」をスパイラルで深める。

P265 P268 ※保健の系統性の改善イメージ図は資料編m3 P203（保体⑮）

体育・保健の「見方・考え方」

現行

体育は、運動やスポーツを価値や特性に着目し、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること（92字）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

体育は、運動やスポーツを心身の充実に果たす役割や**多様な楽しみ方**の視点から捉え、自他の豊かな生活と活力あふれる**社会づくりにつなげる**こと。全学校種で1つにそろえ、短く分かりやすく示す。

P267 ※現行と改善案の文案は資料編m3 P192（保体④）。本文P267は改善の方向性のみ

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの中学校の保健体育の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **保健体育編**
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜中学校 保健体育：どこが変わる？（マーカー比較）｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

学習指導要領の本文

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

中学校の保健体育の指導案（試案）



中 保健体育（保健分野） 2年

傷害の防止

本時のねらい 地域の
交通事故データから、事故が多い地点の
要因を人的要因と環境要因に分けて
考え、安全な行動と環境の改善の
両面から防止の方法を考え…

指導案を見る →

もっとくわしく

保健体育の変更点（くわしく） 新旧比較（全校種） 中学校の先生へ
資料室（中学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで

該当ページが開きます）。